



やっぱり、家族っていいね。

家族の日
家族の週間

このコンクールは、内閣府「家族の日」
「家族の週間」の趣旨に賛同しています。



令和3年度

家族への手紙コンクール最優秀賞作品集



石川町青少年健全育成推進協議会

石川町教育委員会

後援：福島民報社、福島民友新聞社、町民ニュース社、夕刊いしかわ新聞社

【目次】

最優秀賞作品

「あかちゃんへ」

野木沢小学校 一年 長谷川 凜華 1

「大すきなおかあさんへ」

石川小学校 二年 矢吹 優奈 2

「三重県のおじいちゃんおばあちゃんへ」

石川小学校 三年 青戸 夏音 3

「お父さんへ」

石川小学校 四年 澤村 兼信 4

「わたしの元気のもと」

石川小学校 五年 矢吹 理桜 5

「天国のひいおじいちゃんへ」

石川小学校 六年 乾 蒼一郎 7

「いつも一生けん命なお父さんへ」

石川中学校 一年 宗像 心花 9

「大切な家族へ」

石川中学校 二年 佐藤 真由 12

「家族の皆さんへ」

石川中学校 三年 永沼 理子 15

「両親にいつも恥ずかしくて言えないこと」

福島県立石川高等学校 二年 伊藤 浩樹 18

優秀賞・優良賞入賞者

22

【家族への手紙コンクールの趣旨】

生きとし生けるものは、親から子へ、そして子から孫へ、古来からその尊い命が受け継がれ、現在に至っています。子どもたちは成長し、やがて親となります。命を後世に伝え、命の大切さを強く認識し、家族愛を一層確かなものにするため、「家族への手紙コンクール」を実施しました。

あかちゃんへ

野木沢小学校 一年 長谷川 凜華

おねえちゃんのりんかだよ。はやくうまれてきてね。あかちゃんにあえるのをたのしみにしているよ。いっしょに、シルバニアファミリーであそぼうね。じもおしえてあげるよ。たくさんだっこしてあげるね。おさんぽにもつれていってあげるよ。

カレンダーを五まいめくつたらあえるってままがいていたよ。それまでにかっこいいおねえちゃんになるからね。まいにちたのしくすこそうね。げんきにうまれてきてね。

大好きなおかあさんへ

石川小学校 二年 矢吹 優奈

おかあさんは、おしごとからかえってくると、

一ばんにわたしの話を、え顔で聞いてくれるね。

かえりがおそいときは、「まだかな。」と、げん

かんでまっているよ。そのままねむってしまうこ

とがあるけれど、すぐ分かるよ。だって、いいに

おいがして、ぎゅっとだっこしてくれるから。手 2

をのばして耳たぶをさわってみると、「ああ、やっ

ぱりおかあさんだ。」ってあんしんするよ。頭をな

でてくれるのもうれしいよ。

おかあさん、大すき。そしてありがとう。

三重県のじいちゃんばあちゃんへ

石川小学校 三年 青戸 夏音

毎年四回行って、二人の元気な姿を見たりぼくの成長を見てもらったりしていたのに、全く会えてないね。元気ですか。電話の声は元気だけど、会うたびに年よりになっていく二人に、ぼくは次に会う時が心配です。

ぼくは、ばあちゃんの料理が大好きだよ。とくに、二日間ねないで作る、長いつくえ二つ分にするおせち料理は、とてもおいしいよ。じいちゃんの笑えないギャグや何度も聞かされた昔話や、ことわざなどが、今は聞きたくて仕方がないです。いつ会えるのかなあ…。

ニュースでいつも気にして見る事は、福島県と三重県のコロナの数です。地しんがおきた時にも二人の事がすぐに頭にうかび、南海トラフ地しんじゃないかと、いつもドキドキするよ。

じいちゃん、ばあちゃん、どうか元気でいてください。どんなさいがいにも負けないでください。そして、次に会うときの、ぼくの成長を楽しみに待っていてください。

お父さんへ

石川小学校 四年 澤村 兼信

「自分で決めたなら、絶対走れよ。」

長きよりが速くなりたいって言ったぼくにお父さんが力強く言ってくれたよね。つらいな、めんどうくさいなって思っちゃうときもあるけれど、お父さんのあの言葉があったから、今も弱い自分に負けないでがんばれているよ。ありがとう。

ぼくが走るって決めてから、ぼくが走りに行くときには一緒に走ってくれるよね。ぼくが決めたことをお父さんも応援してくれているんだなっと思うと、やる気がわいてくるよ。「あと少しの時は小また、ゴールが見えたら全力。」って走るコツも教えてくれたね。走る時はいつも頭の中でお父さんの言葉をくり返しているよ。

あの時のお父さんの言葉って、自分で決めたことには責任をもって、最後まであきらめちゃいけないんだって言うぼくへのメッセージでしょう。お父さんとの約束を守って心も体もどんどん成長するからそばで見ててね。

わたしの元気のもと

石川小学校 五年 矢吹 理桜

おばあちゃんは、料理がとても上手だね。わたしは、おばあちゃんが作るご飯が、大好きだよ。わたしがおばあちゃんのお料理の中で一番好きなものは、きんぴらごぼうだよ。わたしが歯ごたえのあるシャキシャキしたごぼうが好きなのを分かっていて、おかわりができるくらいたくさん作ってくれるね。

二番目に好きなのは、ささみのからあげだよ。小さめの一口サイズだからとあげてくれるから、食べやすいよ。おばあちゃんは、「とりのささみを食べて体をきたえると、きん肉がつくよ。」と教えてくれたね。水泳で、クロールのタイムをどんどんこう新させることができたのは、おばあちゃんのお料理のおかげだよ。

そして、三番目に好きなのは、魚料理。わたしがサケの皮が好きだから、パリパリに焼いてくれるね。カルシウムをたくさんとれるようにとサンマをあつ力なべで調理して、ほねまで食べられるようにしてくれるね。

それに、私が苦手なものを、少しずつ食べられるようになったよ。おばあちゃんが、

「がんばれ、がんばれ。」

と応援してくれるから、前向きな気持ちになれるよ。食べられた時は、すごくうれしいよ。そんな時、おばあちゃんもいっしょによるこんでくれるから、うれしさも二倍になって、自分に自信がもてるようになったよ。給食も残さなくなったことを伝えたら、おばあちゃんは、にっこりとほほえんでくれたね。わたしは、それがとてもうれしかったよ。

わたしが今、こうして毎日元気でいられるのは、おばあちゃんがわたしのことを考えて、おいしくて体に良いご飯を作ってくれるからだよ。そして、わたしをはげましてくれるからだよ。おばあちゃんに、たくさん支えてもらっているね。ありがとう。これからも、おばあちゃんの愛情たっぷりのおいしいご飯を、たくさん食べていきたいな。

天国のひいおじいちゃんへ

石川小学校 六年 乾 蒼一郎

じいちゃん、もうすぐお盆です。今、ぼくたちは、じいちゃんをお迎えするための準備をしています。じいちゃんが亡くなってもう十カ月も経つんだね。じいちゃんを初めて迎えるお盆を前に、ぼくはこの手紙を書いています。

先日、久しぶりにじいちゃんの部屋に入りました。じいちゃんのおいがしました。部屋をながめていると、じいちゃんと過ごした八年間の思い出がよみがえってきました。

じいちゃんと過ごすようになったのは、ぼくが二才の時だったよね。じいちゃんはぼくのために、いつも冷凍庫にアイスクリームを用意してくれていたよね。お母さんは、「むし歯になるから、食べちゃダメ。」と言っていたけど、ぼくはこっそりじいちゃんの部屋に行って、アイスクリームを食べるのが楽しみでした。

じいちゃんは、つりが大好きだったよね。魚をさわらせてもらったり、一緒にエサをあげたり、

アルバムには、笑っているじいちゃんがたくさん写っています。そして、小さかったぼくは、じいちゃんのひざの上でだっこされて、大切にされていたことをよく覚えています。

ぼくが小学校に入ると、毎朝見送ってくれてあげがとう。今も学校に行く時ふり返ると、じいちゃんが笑って手をふっているような気がします。そこにじいちゃんはいないけど、なんだか守られているような気持ちになります。

ぼくは、じいちゃんが毎日神棚に手を合わせていた姿を覚えています。欠かさずに水替えを行います、お供えをする姿をぼくは尊敬しています。ぼくも毎朝祭壇に手を合わせています。「何も願わず、ただ毎日健康で過ごせていることに感謝なさい。」と、じいちゃんはよく教えてくれたよね。でも今だけは、「じいちゃんが道に迷うことなく家に帰ってこれますように。」と祈っているよ。

いつも一生けん命なお父さんへ

石川中学校 一年 宗像 心花

お父さんはいつも、私達兄弟の、風花、心動、私を養ってくれてありがとう。そして、十二年間ずっと、育ててくれてありがとう。

お父さんはいつも、お仕事をしているけど、林業という、とても命を落とすかく率の高いお仕事をしています。木を切るのに山を登り、チェーンソーを持つだけでも大変なのに、そこまで私のためにがんばってくれてとてもうれしいよ。私が生まれる前、お父さんは雨の日に木を切っていて、がけから滑って、チェーンソーで足を切ってしまいました。山を下りるのに時間もかかったのに、それから病院まで自分で車を運転して病院に行ったという話をお母さんから聞きました。チェーンソーで足を切って血をたくさん流してもあきらめず、その痛みにもたえて、とてもすごいよ。私だったら絶対あきらめていたと思うよ。それだけ大変なお仕事を、長い間ずっとやり続けていて、とても尊敬するよ。

それに、お父さんは工作も絵も得意で、すごいよ。お父さんは、私が小さいころに、よく絵の描き方を教えてくれたり、幼稚園のハロウィンパーティーのときに着ていく服も、お父さんが作ってくれたり、器用で何でもできるお父さんが、私は好きです。美術部に入ったのも、お父さんの絵に、小さいころからあこがれて、自分もこういう絵が描きたい、それを超えたいと思って、絵を描くことにはげむことができました。それにお父さんは、「必ず何でも続けて、努力していれば、その結果は必ず自分に納得いく結果になる。」と教えてくれました。一度、絵をあきらめようと思ったときに、お父さんにその言葉を言ってもらって、とても勇気をもらい、ここまですることができました。それに、今でもアドバイスをしてくれて、とてもうれしいよ。

私は、とても仕事が上手で、私と比べものにならないくらいとても器用で、とてもムードメーカーなお父さんが、大好きです。私もお父さんみたいなすごい人になるため、勉強も、しゅ味の絵も

あきらめず続けられるよう、一生けん命努力して、集中して良い結果を残せるようにしたいです。

お父さんは、私たち家族の大黒柱でもあるし、私の一番のあこがれでもあります。今は、お父さんの絵のマネをして、絵を描いているけど、いつか絶対にお父さんをぬかすくらいの絵を描いて喜ばせたいです。

お父さんは、仕事でも遊びでも一生けん命で、とても輝いて見えます。私もお父さんみたいな大人になって、みんなのあこがれになれるようがんばりたいです。

本当に、ここまで私を育ててくれてありがとう。私もお父さんみたいに勉強をがんばるから、お父さんも、誰にも負けないようがんばってね。

大切な家族へ

石川中学校 二年 佐藤 真由

暑い日が続きますが、お元気ですか。中学生活の中間である今、家族のみんなに感謝と尊敬の気持ちを伝えるために、この手紙を書いていきます。毎日、私の側で支えてくれるお父さん、お母さん、そして私の心の支えであるお姉さんに、それぞれ尊敬の気持ちを伝えたいと思います。

まず、お父さん、毎日家族みんなのために働いてくれてありがとうございます。お父さんの話を聞いていると、銀行員という職業はお客さんと沢山の話をし、直接関わる機会の多い仕事だと改めて感じました。お父さんのように、様々な人に寄り添う仕事は、たとえ技術が進歩しても、機械では真似することができず、人間だからこそできる仕事だと思います。これからも無理をせず頑張ってください。

次に、お母さん、毎日家族一人一人のことを考え、明るい気持ちにしてくれてありがとうございます。お母さんは、いつもおいしいご飯を作って

くれて、とても感謝しています。最近は忙しく、なかなか家事を手伝うことができず、申し訳なく思っています。久しぶりに洗濯物を干したり、食器をふいたりすることを手伝うと、改めて家事の大切さがわかりました。これから、私もお母さんを見習い、自分にできることを見つけて、たくさん手伝いができるようにがんばります。また、お母さんには、沢山のものに興味や関心を持つきっかけをもらうことができ、海外の文化や音楽など、今まで自分が知らなかった世界を教えてもらいました。そして、最近はお母さんの体調も回復し、とても安心しました。これから、私もお母さんのサポートができるように頑張るので、これからも元気でいてください。

最後に、今年の八月で二十歳の誕生日を迎えるお姉さん、二年目の大学生活は忙しくも充実しているようで、私も嬉しい気持ちになりました。昨年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、大学生活に戸惑ったことと思います。電話をすると、いつも明るく話してくれて、とても元気をもらっ

ています。限られた生活の中で、できることを見
つけ、何事にも積極的に取り組むお姉さんの姿を
尊敬しています。疲れたとき、お姉さんの頑張り
やアドバイスを思い出して、自分も頑張ろうとい
う気持ちになります。心の支えになってくれてあ
りがとうございます。また、時間ができたらいつ
でも家に来てください。

改めて、手紙を書くと、家族のみんなから学ぶ
ことはまだまだ沢山あると感じました。この手紙
を通して言葉で伝えられたことは、ほんの一部だ
けかもしれませんが、私は家族みんなのことを尊
敬しています。自分の知らないところでも家族の
みんなは沢山の努力をし、生活を支えてくれてい
ることに感謝しています。まだまだ家族のみんな
には、迷惑をかけてしまうことがあるかもしれま
せんが、私もみんなを支えていけるように頑張り
ます。これからもよろしく願います。

家族の皆さんへ

石川中学校 三年 永沼 理子

拝啓 空も秋色を帯びてまいりましたが、皆さん病気にかかることなく、ご清祥にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

手紙を家族へ書く機会など、めったにありませんし、今年は中学生最後の手紙になると思います、母から教わったしっかりとした手紙の書き方で皆さんへの感謝と、これからに向けた私の思いを、書かせていただきたいと思います。

日頃から何かと至らぬ私に、色々と世話を焼いていただき、上手く言葉では言い表せないほど感謝しております。父さんと母さん、おばあさんには、仕事や家事、私の学校への送迎。兄さん、そして妹には沢山一緒に遊んでいたいたり、話し相手になっていたいただいたりしました。また、皆さんには、沢山のお言葉、注意をいただき、言い合いも絶えませんでした。どれも今の私に無くてはならないものばかりでした。もうすぐ私は十五歳になりますが、まだまだ幼稚で、至らないことばかりだと思います。

出来る限り自立できるように努力しますが、いつもの様に沢山言葉をかけていただけたら嬉しく思います。

さて、そんな私もあと半年ほどで中学校を卒業することになります。しかし、未だに将来についてのビジョンが見えぬまま、進学先もはっきりと決まっていない状況にあります。きっと皆さんこう思うことでしょう。大事なところで優柔不断だと。私自身もそう自負しております。そんなとき母さんの「自分のやることは自分で決める。」という言葉がいつも思い浮かびます。この言葉を胸に、自分の進路を自分の意志で決めたいと思います。しかし、考えるとは兄さんの様に勉強はできませんし、長い期間努力する事も苦手で、上手くいかないと思うときがあります。そんなとき、

「理子は俺よりスペック高いと思うぞ。」と、兄さんに言って頂けるのはお世辞のように感じることもあります。とても嬉しく思いますし、父さんや母さんにも、

「理子はやればできるんだから。」と言って頂ける

のは、少し調子に乗ってしまうこともありますが、自信が持てるようになり安心します。

「だから真面目にやれ。」

と一言おまけについてきますが、そんな厳しい一言をくれる家族が私は大好きです。ですので、その言葉の期待、思いに応えられるような人になってみます。そのためにもまずは受験に向け、勉強に力を入れていきます。また沢山お世話になりますが、どうかよろしくお願い致します。まだ就きたい職業や、なりたい大人像は曖昧ですが、皆さんに恩返しができる人になりたいと考えております。立派な大人になるまで見守っていてください。

私自身を写したような拙い文章となってしまう申し訳なく思います。それでは、これからもご指導、ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

敬具

両親にいつも恥ずかしくて言えないこと

福島県立石川高等学校 二年 伊藤 浩樹

父さん、母さん。私が生まれる前の健康診断で難聴を持っていると伝えられた時はどんな気持ちだったでしょうか。長年子供が出来ずやっと待ち望んだ子供が健康体ではなかった。それを知った時の悲しみはさぞかし神様を恨んだのではないでしょう。でも、そんな中で生んでくれた母さんには、感謝でしかありません。そのような状態で生まれた私に他の子供と同じ愛情をかけてもらって育った私は、今とても充実した学校生活を送れています。

難聴を持っていたとはいえ、わがままでやんちゃ坊主だった私にはとても手を焼いたことでしょう。その性格は今でも変わらず健全です。ですが、その短所を上回る位、家の掃除や、勉強、家族の朝食を作るなど家族のために何が出来るかを考えて行動してきました。両親は、いつも私がせっせっせとこれらのことをやっていることをどう思っているかわかりませんが、自慢の子だと思ってもらえたらうれしいです。

私の難聴は、このままじゃ日常生活に支障が出るからという理由で何十万という値が張る補聴器を買ってくれましたね。本当にありがとうございます。以前母さんから、初めて補聴器をつけた三〜四歳の頃は毎日つけるのを嫌がってとても苦労したと聞いて、補聴器が何の役目をするのか分からないのに何故これをつけるのだろうか、泣きながらつけるのを拒んだ記憶が思い出されました。あの時は、わがままを言ってしまうごめんなさい。

そして、今までずっと補聴器をつけていて、それでも日常生活に支障が出てきてしまった時がありました。その後、病院に行ったら先生から手術を勧められました。私はとても迷ったけれど、手術をするかと決断しました。両親は、その決断を反対せずに聞いてくれましたね。本当にありがとうございます。私のかかりつけの病院では出来ず、会津の病院で手術をすることになりました。でも父さんはわざわざ一時間かけて病院に連れていくことになっても、そんなことを気にせず連れて行ってくれたね。本当にありがとうございます。私は、そんな父さんが誇りです。

両親からはたくさん学ぶべき所がありました。母さんからは、子供がどんな病気を持っていたとしても自分の子供だから愛情を持って育てる優しさ。父さんからは、子供が病気を持っていてそれを治すためなら自らの苦勞もいとわれないという心構え。私が思うに、これは親のあるべき姿だと思います。私は、そんな両親の元に生まれてこれて幸せです。今まで私を大切に育ててくれてありがとう。これからもたくさん迷惑をかけると思うけどよろしくね。

【優秀賞入賞者】

「ぼくのばあちゃんへ」 石川小学校 一年 瀬戸山 蒼翔
 「大すきだよばあば」 石川小学校 二年 金澤 澄伶
 「妹のあーちゃんへ」 石川小学校 三年 乾 百 花
 「天国のひいばあちゃんへ」 石川小学校 四年 佐川 莉声
 「うちのスーパーマンと魔法使い」 石川小学校 五年 高橋 美羽
 「大好きなおばあちゃんへ」 石川小学校 六年 金澤 怜也
 「おばあちゃんへ」 石川義塾中学校 一年 根本 芽依
 「自慢の家族」 石川中学校 二年 力丸 香音
 「心の支え」 石川中学校 三年 藤田 真央
 「山形県民になったお姉ちゃんへ」 福島県立石川高等学校 二年 水野 乃亜

【優良賞入賞者】

「だいすきなままへ」 石川小学校 一年 太田 結梨
 「かぞくへ」 石川小学校 一年 目谷 美月
 「わたしのパワー」 石川小学校 二年 岡部 暖
 「ばあば大すきだよ」 石川小学校 二年 相樂 晃乃進
 「お母さんとぼくのガッツポーズ」 石川小学校 三年 渡邊 盛嗣
 「強くてかっこいいじいじへ」 石川小学校 三年 小野 航聖
 「ママありがとう」 石川小学校 四年 陣野 來々
 「頑張り屋のお母さんへ」 沢田小学校 四年 郷 結楠
 「家族のきずな」 石川小学校 五年 岩下 遥空
 「お父さんお母さんへ」 石川小学校 五年 二階堂 隼人
 「いつもそばに」 石川小学校 六年 富岡 由愛
 「たけるへ」 石川小学校 六年 松山 柚姫
 「天国のおじいちゃんへ」 石川中学校 一年 角田 絆
 「感謝の気持ちをこめて」 石川中学校 一年 小林 歩叶
 「大好きな母へ」 石川中学校 二年 鈴木 爽加
 「お母さんへ」 石川中学校 二年 鈴木 みひろ
 「お母さんへ」 石川中学校 三年 佐藤 理奈
 「伝えたいこと」 石川中学校 三年 山田 凌子
 「母へ」 福島県立石川高等学校 二年 初見 歩

令和3年度 家族への手紙コンクール最優秀賞作品集

石川町青少年健全育成推進協議会 石川町教育委員会

〒963-7852 石川町字関根 165 石川町教育委員会生涯学習課
電 話 0247-26-2566 F A X 0247-26-4992

